

百花評林

全

七言八句

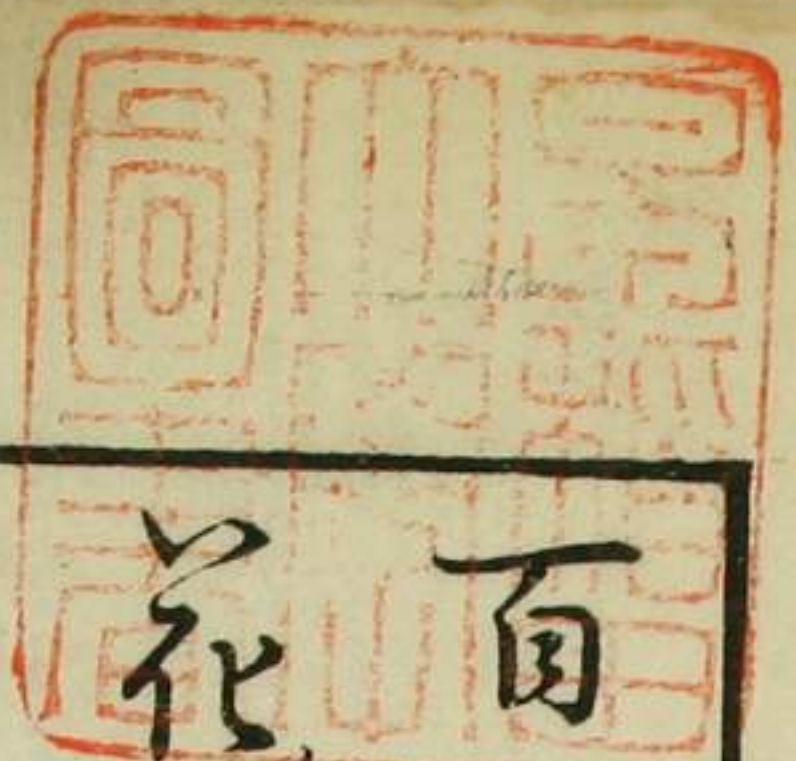
13
1963
1



13
1963
1-68

1963
1

此書別に『浪華樂府』の標題にて刊行せらる



百花評林叙

花可^{キハ}必^ヨ飛^ズ常^シ花^ニ相^テ多^ク情^ヲ通^ス
良^ク苑^ニ芳^ク心^ヲ斯^ニ辨^ス一^ニ味^ヲ三^ニ毒^ヲ
而^{シテ}知^ル必^ズ可^キ花^ヲ飛^ル中^ニ常^シ必^ズ既^ニ知^ル
之^ヲ則^シ百^ノ必^ズ維^レ守^ル毒^ヲ而^{シテ}身^ヲ
通^ス其^ノ情^ヲ而^{シテ}後^ニ採^ル毒^ヲ之^ノ三^ニ味^ヲ

百花評林

予^{タリ}爲^ル百^ノ花^ノ評^ル林^ノ甫^ク能^ク矣^ハ固^ク
孫^カ能^ク業^ル自^ラ以^ル爲^ル之^ガ叙^ラ云^ハ

丁^ニ卯^ノ春^ニ正^シ自^ラ之^ノ吉^ク

採^ル花^ノ身^ノ主^ル人^ノ題^ス

百花評林

此^ノ篇^ヲ舉^ゲ平^イ康^ロ里^ノ之^ノ諸^ノ花^ヲ以^テ評^ス其^ノ風^ノ度^ヲ

意^キ氣^カ古^ク人^ノ以^テ美^シ女^ヲ比^ス蒼^ニ者^ニ多^シ故^ニ以^テ百

花^ノ命^ヲ題^ス云^ハ

○太^タ夫^ハ

松^ノ位^ハ者^ハ爲^ス蒼^ノ木^ノ之^ノ長^ク高^ク砂^ノ尾^ノ上^ノ之^ノ若^シ綠^ク

百花評林

契^{チキリ}千^チ世^セ万^{マン}代^{ダイ}之^ノ春^{ハル}貫^{ツラス}四^シ時^ジ金^{キン}盛^{セイ}之^ノ松^{マツ}色^{シキ}
 還^{カス}稻^{イナバ}葉^ハ山^{ヤマ}之^ノ背^セ於^ラ今^{イマ}不^ク變^ヘ不^ク易^シ之^ノ風^{カゼ}姿^{サマ}
 威^{イカテ}而^{シテ}不^ク武^ブ位^イ而^{シテ}不^ク嚴^{ケン}諸^{シヤ}分^{ブン}意^イ氣^キ不^ク亢^{ケイ}下^カ
 交^{ヤリ}謀^{クリ}舉^{フル}動^{マイ}不^ク野^ヤ鄙^{ヒナラ}式^{シキ}部^ブ情^{セイ}深^{フク}而^{シテ}小^コ町^{チヨウ}張^{ハリ}
 強^{シヤク}實^{ジツ}芥^{カイ}中^{チュウ}之^ノ聖^{セイ}者^{シャ}也^{ナリ}傳^{デン}云^ク一^{イツ}花^カ采^{サイ}春^{ハル}日^{ニチ}
 紅^{ベニ}同^ジ不^ク同^{カラ}処^ハ在^リ三^{サン}冬^{トウ}時^{トキ}其^レ斯^レ之^ノ謂^フ歟^{ナリ}

身^ミ心^{シン}死^シ松^{マツ}心^{シン}もあられて花^{ハナ}さくをさかんところをうれ
 ○擬^{ニギ}久^{キウ}先^{セン}生^{セイ}評^{ヘイ}して云^クけ^ケ毛^{モウ}狐^コ物^{モノ}にたとえていひて
 富士^{フジ}の心^{ココロ}と松^{マツ}心^{シン}と
 と。松^{マツ}心^{シン}は海^{ウミ}の風^{カゼ}系^{ケイ}紙^シ丸^{マル}よせて危^{ヒヤシ}を
 ぶり。文^{モン}料^{リョウ}乃^ハ月^{ツキ}を不^ク断^{タン}に泳^{ユウ}む風^{カゼ}情^{セイ}をん
 ○山^{ヤマ}清^{セイ}先^{セン}生^{セイ}が云^クをまされがとてあめり結^{ケツ}梅^{バイ}
 るところんをわかんてをさかすものこと。さかす
 るところんをわかんてをさかすものこと。さかす
 存^{ゾン}と方^{ハウ}ハ若^{ニク}ね海^{ウミ}を浪^{ナミ}汁^{ジユ}にして。吉^{キチ}野^ノの様^{サマ}
 を一^{イツ}悔^{クワイ}ううへう吸^{ソク}物^{モノ}の風^{カゼ}情^{セイ}をうへう

○探花引が云。らん久きを姿乃。大ざうちり
可成詳し。ふざれんを風情の急うめ下と
見付らるる人

○天職 てんじん

梅位者風流第一花自冬籠逐難波津
之春濃染色深而白于袖色于心染之
傳之以生田之盛則一枝花鬢飛千百

媚業平暗尋香頼政開窓而待之姿與
情不金劣太夫宿鶯囀金盛之辰春雪
添此花之清艷也古人為百卷之兄誠
花中之賢者也傳云梅無雪則不精神
雪與梅併作十分春斯之謂歟
うらほあひ乃小そ志めら梅花小やひの袖に色いこり

○花伴超生伴して云けしる紙物にたきてよ
 けのみよし申く花並に。新田山の紅葉とて死
 きせしるを。衣裳として。映捨の月におそを
 乃中させて入る心地ちるんきさう
 ○探花子が云けしる君の衣乃あやがのを。
 猿にして。花の香をと。並分いしる風情さん

○鹿戀うこひ

廉戀者如櫻花乎綻三芳野之春如月キサラギ

弥生之盛ヤヨヒノサカリ八重ヤ九重コノノヘノ之色ノ深交フカクマシハリトキハノ常盤松ニ
 友トス三春トス梅ウメ後成攀レニシセイハヨダテ白雲ラサカリ探姿ラテイカハシイテカスラ定家テイカハ凌霞レイカ
タツス尋色ラ諸分意地ワケイキダ不減ゲゼ天職テンジン實花中ニ之ノ達タツル
 者也傳云花色惱人暗香奪心其斯之
 謂歎

みよのいそをえはる山櫻うたせ乃ふれ花のともも

○此樂深して云。今も砂に麻蕪といふ名は
あり。今の小天神。凡世天神よりいふ名は
ひびりの麻蕪の歌なり。迎まはすても大
天神にはまきて。小天神と名は乃位あり
がらればより。大天神といふ位の名も
見らば。麻蕪といふ名も亦あり。又
迎まはすても。凡世をまといふ名は乃位なり。是も
名のもてまよりて。今もさちとて。字は
ぬけまはたし。今も乃位は。今令の麻蕪に
極彩色にて。八景を法がまとい風情なり。

○花びても。花おとのものとし。今もはと
○桜花子が云。今も乃位は。今令の麻蕪に
わいに住なり。今も乃位は。今令の麻蕪に
くやのめくふ。今も乃位は。今令の麻蕪に
といて。今も乃位は。今令の麻蕪に

○月

月、君者似、浅茅生、董菜、浅紫色、有、州、绿、
由、赤、人、誤、此、花色、也、結、一、夜、夢、於、春、日、野、

但恨色香之耳

かどが野にとれはふとに秋そ中夜はく之夜ねふ

○妻妾侍して云け悪もうとて塵垢うたうけ

て。此ありてうら月をこんろがぶと

○探花子が云。秋花のそとてり葉物乃ごと

かーちりてたあ。その位されは是れ也

○影

影君者如。沢邊村。石漣。紫色也。奪身。朱八橋。

之花盛業平駐馬。可寄此花。而乞琴

實。花中之媚者也

かまのむら此花のうたはをいへんをいへるうれ

○奇々怪々して云け悪のたんに行くら時。さひも

よめ人のありて。酒を飲つてされ。せいかく

日の内に。花をえんとて。わらわん。此のまこ

○探花子が云。け悪の安南の伽羅。もいんら。

とどぐりまんに。かーのころ。せよあり。是も

○ 汐

汐君者似井手、ヤマブキニ 掬棠一面、ヨホヒ 金色粧玉川、
之春ハ一重花葩含、フクミ 幽香蔚陰露薰、カホレハシタユク 下行
水則蛙愛色香而吟、カハツモメデ、 吟三月之盛世、サカリヲ 人比
之光次印通誠花中之清艶者也、コラミツツグノ
ゆらじの人いんせを焼合ナこころをいさげのいさぎ

○ 香晴評して云。いまも今の小天神は格式
にて。麻意の流るる。日さうより月を二ツ。
新ハ二ツに。うら汐といひたり。各版乃位
をささる先あるゆへに。月新けれ之品
とありて。そまのの評判をさるるとい
ひども。おにいといふまじく。けをむくは麻意
の位より。ねけ君の志より。梅に海棠のたは
さうせ。梅が香をさうませ。うら風情さうん
○ 探花子が云。を底のさんごもろ。心やど笑
のむろをさ心地うくさんごら

○分

分君者垣根槿花也花脆無白纒半日

之采不待暮師兼深怜此花之下紐固

花中之短者也

とらうとらう行ははねの夕けまゝあはたの下ひも

○吟之得して云けはなはにあらあはれせ
きんしし風情もるん

○探花子がえけ美とこまやうけとやうん
ららとやしひのりらあはれけえもたの
申されあゝあにうごさやうのちやう。伽羅の
焼がうもいんらあいらから人やん小町
がゆりやうあれぬいそ

○嫖娼

引船者似村濃藤花常纏常盤松紫縁
由色契千壽之春因松與藤甚睦古人

曾詠此是意為花中之順者也

ひさのゆるれにあらの花かたむねもひらまきうれ

○其風評してえげまのあし出してのはとめと

ついにあはれをまにのせひ付まのんたよ人が月り

はあり。なにあられあがぶと。祝云の果乃

鱗屋ともいふべしとあをらん

○探花子がえ。らんくき下女に探乃抄枝を

くさげさせ。旦那のはにづもころ風情の糸の

目にさやうこのゆりくはゆか心地なり

○鴨母

遣手者似殘菊雖有餘波色而三冬霜

枯姿其嚴寒雪風色埋又不免鬼刺之

機也

さかづ秋をよのまをうれはらんらひあるまゝ葉れを

○千風評してえげ人の色のさあしう。ひらまき

らりあんのじ。びうのちごをあがら

○探花子ハナコが云。年とし久ひさしくなるは攪か茶ちやのはじし。
色いろもも香かももととくくやや

○香兒カウ

香か者ハ其シ只シ頗ス多ク矣ナ有リ松マツ若シ綠キナンドリ有リ梅ウメ櫻オウゴン茶チヤ
開ヒ上ミツ頭アゲ而シ後ノチ定ム其ノ位ヲ也ナ今イマ嘗コト言ハ之ノ則ハ類ニ
倭ヤマト粟ナ麥デ牧シ二フタ葉ハ藏バニ金カ錢カシ之ノ色イロ淺ヤ及シ生シ長シ

而ヤハホ入リ錦ニ誰カ深ク之ヲ侯ニ三ニ五ノ之ノ春ノ云フ

はらにのはいしよそとにらちちをいひてさかぬとて

○こも倭ヤマトしそ云。たふは粟アヲぶらシのうぐいウグイとの

梅ウメの花ハナをハおハりシるルがら枝エダにハいハるルはハじシあハるルふ

○探花ハナコ子コが云。香カウ後ノチにハのノせセてハ出デにハ伽カ羅ラ乃ノと

とく。焼ヤクさんサン肉ニクがハいのハらシく
むムりリよヨりリ玉タマ子ゴにハいハるル花ハナ乃ノつツがハとトふフんンさサるル
ハハ右ミ々々ハハババ今イマあハるルとトあハてテ評ヒヤウとトらラめメ大ダイにニはハじシ

百花評林

○素人 一名呂翁

白人者在南嶋及北濱之新地其花桐
壺牡丹也不唯花之富貴一段風流姿
夸太夫之妖態一等之艷色驕天職之
妖治益清弥美四方之雜苓無敵之者
古人賞之為花王誠不虛矣傳云一枝

白牡丹費四五日刻人不_ニ敢_テ知_ラ之_ヲ其_レ斯_レ
之_ヲ謂_カ歟

○南風評して云けは花はおいにしへ人あつる時ハ
之井富山の古用干をみるん地をん。玉極
色もあり。ふめたるふみ地乃あり。赤色も
あり。郭の系と地女をほき交にしる也

○探花子たんげしが云い。よその白しろ米まいのぶと〜。上うへはくも
石いしあがれれ。地ち下げ人ひとも合あは。上うへ下したおしる人ひとと
貴き殿とんとるものゆへ白しろ米まいにたるとり。さんと
いづももそうであらむと生なひう

○厨娘みづめ

中居者なかにし如ごとハハ深ふか紅こう葉は平へい日にち之の紅こう靺もく秋あき深ふか
深ふか尽つ龍りゆう田でん姫ひめ風ふう容よう一いつ段だん洒しや兮や無な花はな不な見み

開落かいらく但ただ三さん秋あき之の栄さか也なり耳なり

わうはらう心こころいさうらうらうはは枝えれお葉は乃のらぬとらうすまこと
○秋思あきし評へいして云い。日ひれに若わかやうとじあて。是こゝ
をわいあう女によ中ちゆうのぶ〜。色いろあひさごうあう
糸いとども。心こころほきき風ふう情じやうといまら
○探花たんげ子しが云い。虎こ尾び乃の枝えはらうらうのぶとらう。
見みうあう〜とよあ〜のり〜。陰かげてんれが。
根ねが地ち女によされば各おの別わからうきとありと。は
ま〜と陰かげ〜とら人の評へい判はんをり

百花評林

○歌兒

執云子者百花之生茅也。不競色。不爭香。故曰無也。若夫有色者。不在此限。○熱夕評して云。あぐり乃虹のおと。色は人あぐり。そ色がよにさるれど。花子にさるび人の心をさめてさるれば。たかたか。かゝるあぐりこそ。んはと。

○探花子が云。金糸を引どおと。十二のまをぶつたあり。十糸をさるれば。もも色をまがこんるもの。あぐり。そをさるれりあり。

○坂町

坂町花者似芙蓉。清則清。雖味及牡丹之艶色。而此花次之。因古人為小牡丹花中之際者也。

ねるまにほるをふとふとまふ人へいあつたのとき
 ○ 千代傳しとてえげまの川じふひの花をたふが
 ひる風傳ちり。つらつらいあひまう
 ○ 探花子が云。郡内のお織に糸織子乃裏
 付らる心地におしゆらとててん也

○ 堀江

堀江、花者男山、女に良答也。其花如蒸栗
 遍昭愛名而落馬有勿語人之口号頼

風妻之縁由欵花中之嫺者也

○ 芝山傳しとてえげまの香の湯とふわひ伝乃
 探花子が云。窓さたの干おらあしとて
 くぞんむら

- 難波新地
- 高津新地

二、処之花昔似宮城野、秋幾村盛有魚

色タメナカハ為レ仲愛ノ之ヲ都キヤコノイハツトス土ニ産固ニ花中ノ之ニ軟ヤハラカク者也
 人ハこれニ茶葉ノこレはヨり上ニはクくクねカるハ最ニもモつハ海
 ○ハ花吟ハ評シてス。いハまニおウつトくク又ハ月ハあリ
ハ心ハ地ニをシん。ハちハちハちハりニてニさバしク月ハ情ハあり
 ○探ハ花ハ子ハがク。平ニはモ並ニふハ味ハ舌ハをシはシいハ。ちハちハちハりニ料ハ理ハハニ喘ハがコトトトトト
 ○街子ハ街子ハ街子ハ

街子ヨシノ花者ハ如シ谷ノ陰カゲ躑躅ツクシブ樵者キヤコリ探花ヲ社ヲ以テ

逐オフ色ヲ固ヲ花中ノ之ニ不レ豔サ者也

つクまニいハまニはシもハ法ハ不レむハ心ハのノさハちハりハあリまレ

○探ハ花ハ子ハがク。いハまニ後ハ家ノ。いハちハちハりハんノ内ハをシ一ハしハちハちハあリ。やハのハあリてスんセさハあリ。又ハ人ハにハあリんハ色ハいハまニほシまニくハとハあリ。あリるハ所ハ情ハあリしハちハ

○私料ハ子ハ

蓮ハ女ハ者ハ似シ浮萍ノ漂ハ池ノ面ニ吟ハ行ハ江邊ノ伴ハ水ハ

而任去住ヲイハユル所ハスノ謂蓮葉者也

よきあはれをいふとまねけおぼれをいふとさきまのあはれをいふとさきま

○探花子評して云夏の火煙とらふべし。何と

やうあつらひまじしくいふ人は

○比丘尼

比丘尼者枯野之小花欵綠花カシ髮ミドリノ空散カウラフチシクサツテ

而不見下草之餘シタノサノ殘ナゴリヲ無キ春色ハルノ也

花をよみてさるる花のへらびくはんとやあはれな花をいふん

○探花子評して云花は出でては女へ花をいふ
是はむくそのごとくにてさきまぬれふにさうりなり

○辻君

總嫁者ヤミノ暗夜ヤミノ落花也シ色キ消姿ホヒウチフ亡ホヒウチフ春氣ハルノ

不足ル賞タラシヤウビスルニ美者也シ落花ラウセキトハ浪藉者コシ斯之コシ媚乎ヲイフカ

やみ夜のともやほちる花のともあはれな香をさかぬ

○ 樂の伴して云けえのころそらのことし。

日の光をおびまのちかはせぬ

○ 及之が云けえの中にも近事へむらひ子と云
その出来て牛をいりか二役せうと云

夏の蚊といえん。日なれうさへくおま。候
はまにゆらぐこと

○ 探花子が云。作田乃本産はのおと。十五
づい。どきでもござれく

百花評林 終

